

# 曇っても皆既日食？！

辻村 幸子

バラ、バラ、バラ……。録音テープはいきなり雨の音から始まっていた。昨日のリハーサルも雨だったけど夜はいい天気になって明日は大丈夫と思っていたら、日食当日の午前中は土砂降りの雨。それでも12時ぐらいに雲が急速に切れ晴れ間が広がってきた。これなら大丈夫と思っていたら天候がまた悪化。録音を始める前から雨はぼつぼつ降っていたけど、14時2分の録音開始頃から雨が激しくな、14時6分頃、雨が土砂降りになり機材を撤収した。

昨日の天気から、13人のグループのうち10人が晴れるといわれている島の南部に移動、平井真希子さん、木寺さんと私がホテルに残ることにした。他にもホテルで観測する予定だった外国のグループもほとんど移動したらしく、見える範囲にはこの3人と、ホテルの従業員しかいない。移動していないアメリカ隊もホテルの建物の向こう側なので姿どころか声も聞こえない。太陽も見えないので静かな中、時間だけが過ぎていく。

手近な宿泊棟の階段入口に機材をすべて運び込んで天候の回復を待つ。雨が降っていても時々雲間からかなり欠けた太陽が見え隠れする。雨さえ降っていなければ写真が撮れるのに。とはいってもこればかりはどうしようもない。ところで、この狭い入口を私と木寺さんの機材で足の踏み場もない状態にしておく訳には行かないので、ペンタックスLXに21mmをつけたものを残し、使わない機材(連続用のマミヤRB67、ペンタックス300mm)をかたづけしてしまった。半分あきらめの気持ちがあったと思う。広角を残し本影錐をねらうことにはしたものの、雨が降ってればそれさえもままならない。ホテルの廊下からねらえないものかと片づけながら場所を探すが、ホテルの近くに木が多く視界が結構さえぎられてそれも難しいようだ。いつでも飛び出していけるように用意をしながら、じりじりしながら雨がやむのを待つ。が時間はどんどん過ぎていく。

14時21分頃雨がやみ、目の前のクリケット場に飛び出す。ここは普段は立ち入れないが日食のために特別に解放されたものだ。でも今日はここを使うのは私たちの3人だけ。こんなに広々としたところで日食を見られるのは滅多にないことだ。

14時27分頃、明るさがだいぶ落ちてきたので、ホテルの人が誘導灯をつけ始めた。ここもつけようかと聞いてきたが、平井さんと私とでむちゃくちゃな英語で「絶対つけるな！」を繰り返す。親切で言ってくれたことは重々わかっているのだが、日食を見に来る人はクレイジーとキッと思っただろう。

14時28分30秒、急速にあたりが暗くなってきた。建物の方からも驚きの声が聞こえる。ここのホテルの人たちも今日は仕事を中断していても日食のためということならOKということらしい。

14時29分34秒、木寺さんが金星を見つける。ホテルの建物のちょっと上だ。地平線に近

いあたりの色が徐々に茜色に変わってくる。

14時30分00秒、南の地平線から紺色の帯のような影が上がってくる。本影錐だ。茜色の空を紺色に変え、雲の一つ一つをひっくり返していくように色を変えていく。月の影がやってきた！ホテルの建物のちょっと上に金星が見える。あたりは真っ暗、皆既である。星は金星しかわからない。

14時31分08秒、第2接触。

14時31分09秒、雲の切れ間から見える空は結構明るい。明るい皆既だと思う。雲の切れ間から見える空は、ものすごく透明感のある紺と青の間ぐらいの色で、涙が出そうなくらいきれいだった。

14時31分20秒、雲の一部が光っているので双眼鏡で見ると月を1/4カットしたようなものが見えるが、あまりにはかなくて本当に月とコロナだったのか自信がない。

14時32分56秒、金星のありあたりから金色の縁取りをしたオレンジ色の明るい帯が斜めに空を上がってくる。あつという間に明るくなって皆既は終わってしまった。

14時33分25秒、第3接触。

なんてきれいな空の色だったのだろう。主役がいなかった分脇役に目がいったということだろうか。確かにコロナは見えなかったけど不思議と落ち込んではいなかった。皆既日食は曇ってもやっぱり皆既日食ということかな。

とはいえ部分食は全く無視して機材を片づけ、第4接触もまだだというのにカリブ海で泳いでいた。